

<娯楽施設火災> 日本の医師2人が台湾到着 医療支援のため現状把握へ

中央社フォーカス台湾 7月2日(木)15時40分配信

ツイート 20

シェア 512



台湾娯楽施設火災の負傷者のニーズを把握するため、2日午前台北入りした菅波茂氏（左）と氏家良人氏

（台北 2日 中央社）北部・新北市の複合レジャー施設「八仙水上樂園」で先月27日に発生した火災の負傷者を支援するために日本から派遣された医師2人が2日午前、台湾に到着した。2人は負傷者が入院している各病院などを訪問してニーズを把握し、今後の支援内容を検討する。

訪台したのは、国際医療団体「アムダ」（AMDA）の菅波茂代表と日本集中治療医学会の氏家良人理事長。日本医師会は30日開いた緊急理事会で、アムダへの資金補助を通じた医師派遣を決めた。

医療ボランティアNGO「台湾路竹会」によると、台湾内で治療に必要な皮膚の在庫が不足しているのを受け、アムダはすでに日本の人工皮膚メーカーに関連医療機器の提供協力を依頼したという。しかし、人工皮膚の使用には日本の専門医師の技術が不可欠だ。

2人は衛生福利部や中華民国医師公会全連会、台湾路竹会の協力を得て、関係各所を回る。

新北市衛生局が同日午前8時に発表した統計によれば、入院中の負傷者は432人。そのうち291人が集中治療室で治療を受けている。

（黄旭昇、障偉テイ、唐佩君、龍珮寧／編集：名切千絵）